



さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第47号(R6. 2. 6)

新生徒会主催、能登半島地震募金、ご協力ありがとうございました

新生徒会役員の初めての取組と言ってよい「能登半島地震募金」。毎朝、新生徒会役員は募金箱を持って早朝から募金の呼びかけをしてくださいました。生徒のみなさんや保護者・先生方の募金により、総額73,610円もの金額が集まりました。このお金は、宗像市教育委員会を通して石川県に送られます。今回の地震で犠牲になった方を悼み、一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。



毎朝募金の呼びかけをした生徒会役員



宗像市高宮教育長に募金を寄贈

授業研修の風景

近年、国や県は「使える学力」「実社会で利用でき役に立つ知恵や技術」を求めています。いわゆる活用する力です。入試ではそうした傾向の問題が増えています。河東中ではもちろん、その力も日常の授業で養われています。

翁林先生(数学)

2月5日(月)7年3組で行われた翁林先生の数学の授業。上記のように、数学を机上の論理だけでなく、実社会の事象を対象として課題に取り組みました。



宝探しのヒントとなる4つの暗号。この暗号による指示を地図上でコンパスと定規を使い垂直二等分線や角の二等分線、垂線を描きながら解明していくと、宝が見つかるという設定の授業です。「意見交流をしなさい」と教師が言わなくても、班員どうし意見を交わし合う課題設定は、生徒の学習意欲を最大限引き出しています。班員どうしが交流しているところは教師が班を回りながら支援しています。

福岡県中学校美術展に本校生徒の作品が多数展示されます!

本校生徒の美術作品が『第33回福岡県中学校美術展』でたくさん展示されます。

展示されるのは、9年1組の松木亜湖さん、8年1組の重見若菜さんと廣田真衣さん、8年4組の森紗花さん、7年6組磯邊志帆さんの作品です。

作品展示は、2月14日(水)から18日(日)までの5日間、福岡市中央区大濠公園横の福岡市美術館にて開催されます。定期考査後ですので、ぜひ鑑賞しに行きましょう。

明日から、今年最後の定期考査です。試験勉強がんばりましょう!
～明日は味方。ひたむきにやっていたら、必ず明日は味方になる。～

176年前につづられた14歳の決意文に書かれていたこと

～ 橋本左内の『啓発録』を読んでみよう ～

江戸時代の終わり、幕末と呼ばれる混乱期に日本国内には彗星のごとくたくさんの偉人が登場します。その中の一人、橋本左内の子どものころ考えたことを紹介しましょう。橋本左内は1834年、現在の福井県に生まれます。20歳の頃、蘭学や医学を勉強するため江戸で学んでいたときにペリーの黒船が来航します。そのころ彼が書いた文書には、「西洋におくれをとっている科学技術を西洋から学ぶことは大切だが、それは日本人としての誇りを捨てて何でもかんでも西洋のまねをすればいいということではない」と記し、まだ日本が開国する前から「いずれ世界には国際連盟というものができ、その中心となるのはイギリスやロシアといった力の強い国になるだろう。このきびしい国際社会の競争を生きていくには、開国してそのどちらかの強国といずれ連盟をむすばなければならない」としています。

170年たった今、彼の発想を考えると、鎖国の中にありながら、その国際感覚の鋭さと先見性に驚きます。そのため、時の権力者の大老・井伊直弼の反感をかい、わずか25歳で処刑されました。いわゆる『安政の大獄』です。歴史に“もしも”は禁句だと言われますが、あえて、もし安政の大獄がなかったら吉田松陰や橋本左内らが生きていたら、その後の日本の歴史は大きく変わっていたと思います。

さて、本題に入りましょう。その橋本左内がみなさんとほぼ同じ年齢のころ、14歳のときに書いた文章が残されています。『啓発録』と呼ばれているものです。これは、5つの決意文からなるものですが、これを書いたいきさつを前置きに書いているのでそこから読んでみましょう。

『自分の性格はおおざっぱで気が弱く怠け者ですので、自分から進んで勉強しようといった気持ちがありませんでした。将来、自分は立派な人間になれないのではないかと、毎夜、寝床に入ってから自分の情けなさに涙を流していました。これではいけない、何とか親の名前が世の中に知れ、世の中のお役に立てるような人物になり、ご先祖様が残してくれた立派な功績を世の中に再び輝かせたいといつも思っていたら、だんだん悟り、その気持ちが心の底からわいてきました。』



後日その気持ちを忘れることのないようにと書きとめたものです。

そして書いた決意文を現代語にし、長い文章を要点だけまとめると、次の5つようになります。

- 一、 **去稚心**(ちきよしん。稚心をすてる) 子どものような甘えた心を捨て去る。目先の遊びなどの楽しいことや怠惰な心や親への甘えは、学問の上達を妨げるので捨て去る。独立独歩の心を持ち、自立する。
- 二、 **振気**(しんき。気を振るう) 何事に対してもやる気を起こし、勇気を持って事にあたる。人に負けまいと思う心、恥を知り悔しいと思う心を常に持ち、たえず緊張をゆるめることなく努力する。
- 三、 **立志**(りっし。志を立てる) 一生懸命に勉強して、天下国家に役に立つ人間になる。自分の心のおもむくところを定め、一度こうと決めたらその決心を失わないように努力する。
- 四、 **勉学**(べんがく。学問にはげむ) すぐれた人物の行動を見習い、自らも実行する。また、学問では何事も強い意志を保ち努力を続けることが必要で、自らの才能を鼻にかけたり、富や権力に心をうばわれることのないようにする。
- 五、 **択交友**(たくこうゆう。友達を選ぶ) 友を選び、切磋琢磨する。友人は大切にしなければいけないが、友人には「損友」と「益友」があるので、その見極めが大切である。

橋本左内は生まれつきの秀才であったわけではありません。子どもの頃は、我々と同じように冬の寒い朝はなかなかふとんから出てこれない、勉強に気が向かないごくふつうの子どもでした。しかし、14歳の時、なんとかそんな自分を変えようと一大決心をします。それが『啓発録』です。啓とは「ひらく」の意味で、自分の能力をひらく、未来を自分でひらくということです。河東中生のみなさんは、176年前につづられた14歳の記録をどう感じるでしょうか。